



March 2015

高等教育推進機構

アカデミック・サポートセンターニュース

Academic Support Center News

Vol. 15

本紙第15号では、アカデミック・サポートセンター(ASC)における2014年度の学修支援の総括をお伝えします。

2014年度ASC利用状況

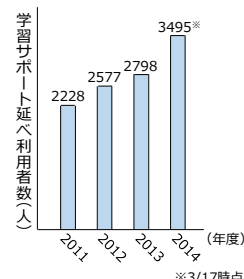
ASCの繁忙期は年に三度ある。そのうち二つは各学期末の試験期間で、試験前に駆け込んでくる学生の質問対応に追われる。もう一つは4月で、履修に関する制度の説明や時間割のチェックを行う履修相談の利用が集中する。特に2014年4月の履修相談は例年に比べ際立って多く(延べ475人、例年の約1.9倍)、この時のASCの稼働率は設立以来、最も高かっただろう。履修相談だけでなく、2014年度は全体的にASCの利用が伸びた。一年間の利用状況を簡単にまとめてお伝えしたい。

まず、学習サポートの利用者の増加は特筆すべきだろう。2014年度の学習サポート延べ利用者数は3495人に上っている。年度毎の利用者数の推移(右上グラフ)を見ると、2014年度の伸びの大きさがわかる。総合入試が始まった2011年度の2228人と比べると1.5倍の利用になる。履修相談の多さが学習サポートの利用増にも繋がったのかも知れない。

ASC設立時から開催しているスタディ・スキルセミナーも順調に利用者数を伸ばした。レポートの書き方やノートの取り方、プレゼンの方法など、大学生としての基本的なスキルを新入生に伝える。今年度は、特に参加者が多い実験レポートの書き方について内容を充実させてセミナーを行った。学部学生や大学院生を対象とするアカデミックスキルセミナー(附属図書館と合同開催)も開催時期を工夫したことで大幅に参加者が増えた。

2年目を迎えた物理ゼミでは、大学から物理の学習を始めた

	延べ利用者数(2013年度実績)
進路選択・履修相談	745人※(536人)
学習サポート	3495人※(2798人)
スタディ・スキルセミナー	195人(154人)
アカデミックスキルセミナー	123人(55人)
物理ゼミ	191人(215人)
数学ゼミ	107人(-----)
英語コミュニケーション	198人(83人)



学生を主な対象とし、基礎概念と典型問題の解説を行う。今年度はスライドを用いた基礎概念の解説が充実した。残念ながら延べ参加人数は前年度から増加しなかったが、セミナーに合わせて配架した資料の配布数は多く、学生への学習効果は大きくなっている印象だ。同様の数学ゼミは2014年度からの新企画で、学習サポートのチューター(TA)が講師を担当し、線形代数学と微分積分学のそれぞれについて基礎固めを行った。試行年度としてはまずまずの結果だろう。

英語コミュニケーションでは留学生TAを5~8人の参加者で囲み英会話のスキルを磨く。本紙前号でも取り上げたように活気があり、参加者数を伸ばした。システムが学生に定着してきたのだろう。



スタッフの心象 第8回「贅沢な悩み??」

このコーナーではアカサポに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

3月初め、総合入試1年生の学部移行手続きの時期。アカサポには様々な不安や悩みを抱えた学生が相談にやってくる。

多くの学生は、興味のあるいくつかの学部を挙げて、授業や研究の内容、卒業後の進路について相談する。中には、成績が芳しくなかったのだろうか、学部・学科の移行点分布を気にする学生もいる。過年度の移行結果表とにらめっこしているが、結果は蓋を開けてみないとわからない。学生には「直前の志望調査の結果を見ながら、自分の希望とあわせて考えてください」と伝えている。

そんな希望と現実が交錯するこの時期、ごく稀に毛色の違った悩みを抱える学生に出会うことがある。彼らの質問は決まって「どこの学部に行けば良いのでしょうか?」である。相談を始めると、抜群に良い成績であることがわかる。移行点が高いため、現実的な学部選択の幅はかなり広いと言える。話を聞くと、選択肢が多いから志望先を決められないというのではなく、自

分の将来像が思い浮かばないというのである。

贅沢な悩みと言えばそれまでだが、実は進路選択の根本に関わる問題かもしれない。本来の進路選択はテストの点数で決まるものではないはずである。仮に、数学が得意な学生が数学という学問の道に進んだとしよう。彼(彼女)の選択理由が、勉強についていけそうだから、あるいは100点が取れる数学が好きだから、というものであれば、かなり危うい選択であろう。学習内容が難しくなったとき、答えの見えない問いにぶつかったときに、志の支柱が失われるかもしれない。

このような悩みを抱えた学生に言える事は、「その悩みが間違っていない」と、「何があっても嫌にならない(なれない)学問分野に進んでほしい」ということである。間違っても学部の人気や移行点の高さだけで選ばないよう、願うばかりだ。



あの頃みんな一年生 vol.2

今回は、今年度でセンター長を退任する川端先生の、大学一年生の頃の思い出と現在の一年生へ向けたメッセージです。

「目の前の道」

アカデミック・サポートセンター長(2015.3まで)
農学研究院・教授 川端 潤



アカデミック・サポートセンター長の川端です。4年半の任期が終了しこの3月末で退任します。これまでアカサポを支えてくださった方々に心から感謝いたします。

さて、最後の仕事の本欄の原稿書きということになりました。総合入試制度の導入から4年。ちょうど4回目の学科移行手続きが終わったところですね。第一志望先に行けた人、移行点が足りずに涙をのんだ人、悲喜こもごもというところでしょうか。思えば私が学部移行を経験したときからもう40年が経ってしまいました。私が北大に入学した頃は、理系は医・歯・水産以外はすべての定員が理類という完全な大くりでした。2年の夏に行きたい学科を順番に書いた志望カードを教務課のボックスに投函すると、通算成績順に志望学科に振り分けられるというアナログなシステムです。

私は化学大好き人間だったので、何の疑いもなく理学部化学科へ進学するつもりでした。今もしアカサポで質問したら、理・化学、工・応化、薬、農・生物機能、水・

資源機能などなど、多様な選択肢がたちどころに提示されることでしょうか、当時はアカサポはおろか学部学科紹介イベントやアカデミック・マップのような気のきいたものは一切ありませんし、もちろんインターネットだのホームページだのものありません。学部学科の内容を羅列した小冊子が配付されたのが唯一の情報源でした。

志望カード提出メ切前夜のことです。その小冊子を何気なくぱらぱら見ていたら、全然興味もなく調べたこともなかった農学部の中に農芸化学科というを見つけました。へえ、何やってるのだろう。土壌学、作物栄養学、食品栄養学、農薬化学などという研究室が並んでいます。なにこれ。化学といたら無機、有機、物化、生化という分類しか知らなかった私には驚きです。化学系の研究室といってもいろいろあるんだなあと目を見開かされる思いでした。なんかこういうのもおもしろそうな気がじわじわとしてきました。そして、そうです、その勢いのまま農芸化学科を第

一志望に書いて出してしまったのです。

もしそのときたまたま小冊子を見直してなかったら、あるいはそれがメ切前夜でなかったら、普通に化学科へ進学していたと思います。運命のいたずらですね。その結果いまこうして農学部の教員をやっているわけですから。ついでにこれは後から知ったことですが、ちょうどその頃工学部では鈴木章先生がノーベル賞につながるお仕事にまさに着手されていました。もし工学部の化学系へ進学していたら、と思わないでもありません(笑)。

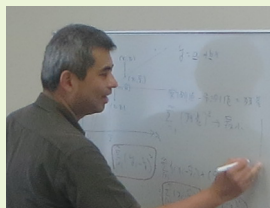
でも私は当時の選択を後悔したことはありません。人生にたればばはない、分かれ道に戻って歩き直すことはできない、だからそのとき選んだ道を信じて進むしかない、そして熟慮した結論が必ずしも最善とは限らないからです。だから、それがどんな選択の結果であれ、今あなたの目の前の道を自信をもって歩いてください。行く手に光あれ、と心から祈ります。

アカサポ・コラム vol.9

今年度でASCを退職するスタッフによるコラムを掲載します。

「スモールデータと向き合った2年間」

ASCスタッフ 吉田 清隆



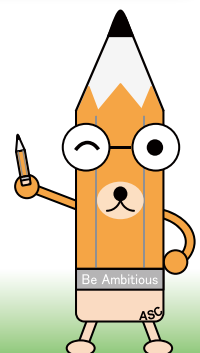
2013年4月に着任してから僅か2年の間でしたが、アカサポの仕事を通じて様々なことを学びました。中でも最も大きかったのは、学生アンケートや移行関連の調査分析業務に従事する

ことによりスモールデータの重要性について再認識できたことです。近年のビッグデータブームとは逆行するようですが、身近な小規模データからでも多くの知見を得ることができ、そのためには適切な統計手法を選択し使いこなせるスキルが必要であること(そして自分にはまだそのスキルが不十分であること)を実感しました。

4月からは他大学に移りIR関連の業務を行うこととなりますが、アカサポでの経験を活かし、より真摯にデータ解析に取り組んでいきたいと思っております。

お知らせ

2015年度より、高等教育推進機構に新たに高等教育研修センターが設置され、その中にラーニングサポート部門が置かれます。ASCはその所属となって、名称もラーニングサポート室(LSO)と改められます。ASCのスタッフと業務は、そのままLSOに移行します。今後とも変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。本紙もリニューアルしてお届けします。



アカデミック・サポートセンター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
E-mail: asc@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL: http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は6月発行予定です